

令和 7 年度全国がん登録実務者研修会

演習問題_症例問題

(令和 6 年度全国がん登録実務者研修会の内容と同じです。)

症例 1_B病院の届出票を作成してください

患者情報

診療録番号：111111
氏名：埼玉 花子
性別：女性
生年月日：1974年2月2日
住所：埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

<現病歴 等>

2024年3月、市の乳がん検診で
左乳房に腫瘍を指摘された。

2024年4月、Aクリニックを受診し、
触診、マンモグラフィ、細胞診、
組織診施行。
治療目的でB病院を紹介。

時系列

2024年4月11日	Aクリニックを受診。触診、マンモグラフィ、細胞診、組織診施行。 マンモグラフィでは、左B領域に30×32mmの腫瘍を認めた。原発巣の細胞診で陽性、組織診で浸潤性導管癌であった。 治療のため、B病院を紹介。
2024年4月24日	B病院を初診
2024年4月24日	MRI、超音波、組織診施行 左B領域に32×31mm大の腫瘍を認める。 左腋窩リンパ節に転移を認める。 組織診の結果は、浸潤性導管癌
2024年5月16日	左乳房切除術施行
2024年5月22日	化学療法開始。
2024年5月31日	経過良好にて退院

<手術病理報告>

浸潤性導管 (Invasive ductal carcinoma)
切除断端に腫瘍細胞は認められない。腋窩リンパ節に転移を認める。

症例 2_Aクリニックの届出票を作成してください

患者情報

診療録番号：222222

氏名：南部 一郎

性別：男性

生年月日：1957年3月21日

住所：埼玉県川口市前川1-11-1

<現病歴 等>

血便の自覚症状があったため、
2023年8月にAクリニックを受診
大腸内視鏡検査を実施し、S状結腸に
病変認める。

時系列

2023年8月5日	Aクリニックを受診。
2023年8月8日	下部消化管内視鏡にてS状結腸に 病変を認め、生検。 生検の結果、高分化管状腺癌(tub1)
2023年8月10日	造影CT施行。 造影CTの所見は、明らかな転移は認めない。
2023年9月4日	腹腔鏡下S状結腸切除術、 リンパ節郭清術を施行。
2023年9月13日	退院。
2024年10月10日	Aクリニックで術後化学療法開始。

<手術病理報告>

中分化管状腺癌(Tubular adenocarcinoma , moderately differentiated type)
切除断端に腫瘍細胞は認められない。
術後壁深達度：固有筋層(pT2)
S状結腸の領域リンパ節への転移を認める。

症例 3_C病院の届出票を作成してください

患者情報

診療録番号：333333
氏名：草加 太郎
性別：男性
生年月日：1946年1月11日
住所：埼玉県草加市西町425-2

時系列

2024年2月1日	C病院消化器科を初診
2024年2月2日	C病院にて、上腹部CT施行。 外側前亜区(S3)3cm、内側区(S4)2.5cm、 前下亜区(S5)1.5cmの低吸収域を認め、 多発性肝細胞癌と考えられる。 造影CT門脈層で左葉の腫瘍からP3とP4 を閉塞する腫瘍線を認める。(VP2)
2024年2月21日	S3とS4の腫瘍に対して、 TACE(肝動脈化学塞栓療法)施行。
2024年3月4日	S5の腫瘍に対して、 RFA(ラジオ波焼灼療法)施行。 治療後、腫瘍の縮小傾向を認め、 経過良好にて退院。

<現病歴 等>

2017年8月から慢性C型肝炎にて、
A病院でINF治療を受けていた。

腹部超音波検査をしたところ、
肝内に多発性腫瘍を認め、
肝細胞がんの疑いでC病院消化器科に紹介。

症例 4_XクリニックとY病院の届出票を作成してください

患者情報

診療録番号：X444444(Xクリニック)
Y444444(Y病院)

氏名：幸手 正子

性別：女性

生年月日：1954年8月8日

住所：埼玉県幸手市中1-16-4

<現病歴 等>

胃潰瘍の治療歴があり、
Xクリニックにて定期的に内視鏡検査を
受けていた。

時系列

2023年2月28日	Xクリニックで内視鏡検査をしたところ、胃角部小彎前庭部側に病変を認め、生検施行。
2023年3月3日	生検結果は、中分化型管状腺癌(tub2)、粘膜固有層にとどまる病変と考えられるため、治療目的にY病院へ紹介。
2023年3月25日	Y病院受診。
2023年3月26日	内視鏡検査と生検施行。 深達度はsm以深と考えられた。 生検結果：中分化型管状腺癌(tub2)
2023年5月13日	腹腔鏡下幽門側胃切除術施行。
2023年6月8日	術後補助療法適用なし。3か月ごとの経過観察。

<手術病理報告>

粘液癌(muc) > tub2

癌細胞は固有筋層内まで浸潤している。癌細胞の静脈浸潤がみられる。
リンパ管浸潤はみられない。切除断端に腫瘍細胞は認められない。

症例 5_D病院の届出票を作成してください

患者情報

診療録番号：555555

氏名：秩父 正造

性別：男性

生年月日：1950年11月11日

住所：埼玉県秩父市桜木町8-18

＜現病歴 等＞

A病院において、腹部リンパ節のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）と診断され、初回治療として化学療法を施行。

化学療法終了後は、経過観察を行っていた。

転居のため、D病院に転院

時系列 ※記載がない部分は、D病院においては不明とする。

2023年10月1日 D病院初診。

D病院では、経過観察を継続することとなった。

＜A病院からの紹介状の情報＞

腹部リンパ節のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)

初回治療として化学療法施行し、その後経過観察